

令和8年1月9日

令和7年度学校評価について

令和7年12月に生徒アンケート及び保護者アンケート、教職員自己評価をWEBにて実施するとともに、その結果を以下のとおり分析し、来年度への課題としました。今回の学校評価の回答数は生徒が411名(85.2%)、保護者が370家庭(82.2%)となりました。御協力いただきまして誠にありがとうございました。

【分析結果】

令和7年度富勢中学校区4校の共通教育目標は「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 富勢の子の育成」、富勢中学校の学校教育目標は「生きる力のある生徒の育成 確かな学力（知育） 豊かな心（德育） 健やかな体（体育）」、学校経営計画の重点目標は「安心できる学校づくり（安心をつくる）」「規律ある学校づくり（信頼をつくる）」「活気のある学校づくり（自信をつける）」の3項目です。

生徒アンケート（17項目）、保護者アンケート（15項目）、教職員自己評価（20項目）についての分析を実施しました。

(1) 生徒アンケート（総合達成率86%）・保護者アンケート（総合達成率85%）

別添資料「令和7年度 生徒アンケート集計結果」及び「令和7年度 保護者アンケート集計結果」参照

達成率が高かった(A+B) 3項目

生徒アンケート

達成率	No.	評価項目
98%	3	授業中、先生や友達の話を聞いている。
98%	7	友達にやさしくしている。
98%	17	交通ルールやマナー、学校のきまりを守っている。

*A評価の割合が高かった項目・・・No.17 交通ルールやマナー、学校のきまりを守っている。

保護者アンケート

達成率	No.	評価項目
94%	1	学校の教育活動全般に関して満足している。
94%	15	学校だより、学年だより、ホームページ、sigfy等から学校全体の方針や動きが保護者に伝わる。
93%	8	今年度の学校行事は、生徒の成長に繋がる内容である。

*A評価の割合が高かった項目・・・No.15 学校だより、学年だより、ホームページ、sigfy等から学校全体の方針や動きが保護者に伝わる。

達成率が低かった(A+B) 3項目

生徒アンケート

達成率	No.	評価項目
58%	4	授業中、自分の考えを発表している。
72%	9	体力づくりをしている。
74%	16	読書（紙の本・電子書籍）をしている。

保護者アンケート

達成率	No.	評価項目
62%	11	宿題は、家庭での学習習慣の定着に効果がある。
73%	2	お子様は、学校での学習内容を理解している。
80%	10	学校は、生徒一人一人の発達段階に応じた支援をしている。

記述については、数件の要望や意見はあったものの、ほぼ全てが好意的なものでした。いただいた意見や要望については、謙虚に受け止め、来年度以降の学校運営に生かしてまいります。

(2) 教職員自己評価（総合達成率 90%）

別添資料「令和7年度 教職員自己評価集計結果」参照

達成率が高かった（A+B）3項目

達成率	No.	取組	評価項目
100%	1	学級経営	一人一人を大切にし、共に喜び、励まし、磨き合いのある学級づくりをした。
100%	2	学級経営	保護者の我が子への思いを受止めた学級づくりをした。
100%	16	学校環境	校舎内外の美化、美しく学習しやすい環境づくりをした。

* A 評価の割合が高かった項目・・・No.14 生徒の生命・健康・安全に細心の注意を払い、報告・連絡を密にして全校体制で指導するとともに、緊急時に即対応した。

達成率が低かった（A+B）3項目

達成率	No.	取組	評価項目
61%	20	保護者・地域との連携	地域及びPTA活動の内容を理解し、地域や保護者との協議による活動をした。
66%	9	GIGAスクール	1人1台のChromebookを授業で活用した。
66%	18	研修活動	研修の日常化及びOJTを生かした研修など、計画的、継続的な研修をした。

【令和8年度に向けて】

- ・ 学習指導要領に基づき、時代の変化に対応できる「教育課程の編成」「教育諸条件の整備」及び「学校評価項目の見直し」を教職員全員で考え、認識を合わせて実行する。
- ・ 教職員間で最初に見通しを立てた上で、生徒自らが課題設定できる、より具体的な指導計画を作成する。
- ・ 評価規準（標準とすべきもの）や達成率が低かった項目を改善するための具体的な手立てについての話し合いを職員会議やモラールアップ委員会などで行い、教職員全員で各項目の目指すゴールについての認識を合わせる。
- ・ 自己評価は自分だけのことではなく、業務を行う上で、周囲の人たちと何が協力できて、何を協力して欲しいのかの意思表示にもなることを意識する。
- ・ 教職員全員でビジョンを共有し、定量目標と定性目標をバランスよく立てて、目指すゴールについての認識を合わせながら、改善への取組を実行していく。